

## I. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

5世紀後半ごろから6世紀半ばにかけての朝鮮半島における勢力分布の変化を受けて、大和政権の朝鮮半島への影響力は大きく後退した。この間、国内でも豪族による反乱があいついで起こったため、九州から関東地方に及ぶ国内各地に政治・経済的拠点としての〔(1) 〕〔(2) 〕を置いて地方支配の強化と財政確保をはかり、渡来人を積極的に登用しながら朝廷と呼ばれる中央政治組織をつくりあげた。603年には冠位十二階の制が定められ、翌年には憲法十七条が制定されて天皇の権威を強調するとともに豪族に対して官吏として守るべき道が示された。憲法十七条には仏教の精神が取り入れられているが、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教の思想を学んで經典の注釈書を著したと伝えられている。僧〔(3) 〕〔(4) 〕は595年来朝し聖徳太子の仏教の師となった。

その後、内外の情勢が緊張するなかで中大兄皇子と中臣鎌足らは天皇を中心とする中央集権国家の体制を完成させようとして改革に着手し、〔(5) 〕〔(6) 〕に従って中国に渡りその事情に詳しくなった僧旻と高向玄理を国博士に任じて政治顧問とした。白村江の戦いで大敗した朝廷は国防の強化を迫られた。中大兄皇子は7年間の〔(7) 〕〔(8) 〕を経て天智天皇となり、全国にわたる最初の戸籍を作成した。この戸籍は（ a ）を正す根本台帳として重んじられ永久保存とされた。天智天皇の没後、皇位継承をめぐる戦いに勝利した大海人皇子は天武天皇となり、大臣を置かずに〔(9) 〕〔(10) 〕政治を行った。天武天皇は豪族らが領有していた私有民である（ b ）を廃止し、684年には天皇を中心として豪族たちの身分秩序を再編成するため〔(11) 〕〔(12) 〕に関する新たな制を定めた。さらに律令や国史の編纂、新都の造営にも着手し、神祇制度や朝廷の儀式も整えた。(ア)天武天皇は仏教も厚く保護し、仏教興隆は国家的に推進されてこの時代に仏教は急速に展開した。寺院・僧尼は国家の統制のもとに置かれ、国家による統制は大宝令の僧尼令へつながっていった。天武天皇の事業を引き継いだ持統天皇は飛鳥浄御原令を施行し、これにもとづいて翌年つくられた〔(13) 〕〔(14) 〕は人民を統一的に支配する基礎となった。以後6年ごとに戸籍がつくられ班田を行う制度が確立した。また、〔(15) 〕〔(16) 〕制を持つ本格的な都城である藤原京も造営された。701年には刑部親王・藤原不比等らによって大宝律令がつくられ、国家の体制が整った。大宝律令は現存しないが惟宗直本編纂の『（ c ）』などから大宝令の一部を知ることができる。

中央政府の機構としては二官・八省が設けられ、主税寮・主計寮は〔(17) 〕〔(18) 〕省、大学寮は〔(19) 〕〔(20) 〕省の所轄とされた。全国は畿内・七道に行政区分されて国・郡・里が置かれ、国司には中央の貴族が派遣されたが郡司にはもとの〔(21) 〕〔(22) 〕など伝統的な地方豪族が任じられた。京には左・右京職が、〔(23) 〕〔(24) 〕宮のあった摂津には摂津職が、九州北部には（ d ）道を統括する大宰府が置かれた。官吏養成のための教育制度として、中央には大学寮が設けられ、地方には〔(25) 〕〔(26) 〕が設けられていたが、(イ)実質的に上層貴族が高い官位を占めその地位は世襲される仕組みになっていた。官吏には〔(27) 〕〔(28) 〕・田地・禄などの給与が与えられ、上層貴族は収入面でも厚遇されていた。

律令制を整えた朝廷は702年に遣唐使を復活させたが、新羅とは争いが続き、靺鞨族と〔(29) 〕〔(30) 〕遺民を中心に建国された〔(31) 〕〔(32) 〕とは新羅との対抗上からも交易が盛んであった。人口増加のため口分田が不足し、また飢饉や自然災害等により荒れてしまう口分田も少なくなかったため、722年には百万町歩の開墾計画が立てられたが成果は上がらず、左大臣となった（ e ）の政権下で(ウ)墾田永年私財法が発せられるに至った。8世紀の末には調・庸の品質の悪化や滞納が多くなり、兵士の弱体化も進んで国家の財政や軍備にも大きな影響が出るようになった。

〔A〕 文中の空欄 (1) (2) ～ (31) (32) に入る最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 栗田真人	12 犬上御田鍬	13 右大臣	14 恵慈	15 大蔵
16 小野妹子	17 外戚	18 姓	19 観勒	20 義倉
21 契丹	22 吉備真備	23 公宮田	24 百濟	25 宮内
26 恭仁	27 国造	28 計帳	29 閨閣	30 玄昉
31 庚寅年籍	32 郷学	33 高句麗	34 庚午年籍	35 皇親
36 豪族	37 高麗	38 国学	39 健児	40 在庁官人
41 紫香楽	42 式部	43 私出挙	44 儒学	45 称制
46 正倉	47 条坊	48 条里	49 壬申戸籍	50 受領
51 摂関	52 大学別曹	53 田堵	54 弾正台	55 重祚
56 勅旨田	57 曇徴	58 中務	59 難波	60 福原
61 封戸	62 史部	63 渤海	64 任那	65 屯倉
66 民部	67 令外官	68 陵戸		

〔B〕 下線部 (ア) に関する説明として誤っているものを下の選択肢から 2 つ選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の解答欄 (33) (34) にマークしなさい。

- 1 藤原京四大寺の 1 つとされる薬師寺の建立は天武天皇の発願によって始められた。
- 2 天武朝においては金光明経・仁王経などの護国の経典が重んじられた。
- 3 興福寺仏頭はもと山田寺の薬師三尊像本尊の頭部であり白鳳文化の特色を示しているとされる。
- 4 僧尼による民間での布教活動奨励のため僧綱制度が整備され天武朝には初めて僧正が置かれた。
- 5 律令制のもとでは仏教寺院・僧尼の管理統制は神祇官の被管である治部省が当たった。

〔C〕 下線部 (ウ) に関する説明として誤っているものを下の選択肢から 2 つ選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の解答欄 (35) (36) にマークしなさい。

- 1 一位の 500 町より初位・庶人の 10 町に至るまで墾田の面積は身分に応じて制限されていた。
- 2 墾田は班田収授の対象ではなかったが口分田と同様に租を納める輪租田であった。
- 3 養老七年の格ともいわれ新たに灌漑施設を設けた墾田の私有が永年にわたって保障された。
- 4 貴族・寺院や地方豪族たちの私有地拡大を進めることになり初期荘園成立の契機となった。
- 5 寺院の開墾は 765 年に一旦禁止されたが 772 年に再び開墾と墾田の永年私有が認められた。

〔D〕 文中の空欄 ( a ) ～ ( e ) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の欄に漢字で書きなさい。

〔E〕 下線部 (イ) に関して以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

この仕組みについて制度名を挙げながら 60 字以内で説明しなさい。

Ⅱ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

志度で生まれた平賀国倫、通称 (37) (38) (1728～79) は19歳の頃に、高松藩主 (39) (40) 頼恭 (1711～71) の「薬坊主」という役職に就いた。頼恭が植物、石、貝殻などの収集に没頭していたことからその役職には主人のお手伝いも含まれたということが想像できる。また、足軽の息子として生まれた国倫の豊かな才能を見出し、藩医に登用したい頼恭の意図もくめなくはない。なぜならば、長州の (41) (42) などに倣って藩校を設立したいと切望する程、頼恭が教育熱心な大名であったからである。

その後については諸説があるが、国倫が遊学して藩との間に距離を置いてしまい、ついに浪人になる。彼が江戸での活動を語る資料が豊富にあるが、いつから江戸に住んでいたのかというのは問題である。江戸での住居について触れる (43) (44) 著の『一話一言』などを手掛かりにすると、(45) (46) の記録である『昇堂記』にたどりつく。そのなかに彼が宝暦7年(1757年)に入門したという確実な記述が見られる。

江戸で、国倫が儒学を修めるかたわら、『万葉集』の注釈書『万葉考』を著した国学者 (47) (48) や、本草学者田村藍水(1718～1776)の門下生にもなる。

日本の(ア)本草学の起源を中国、とりわけ明の李時珍による1590年刊行の『(49) (50)』に求めなければならないが、慶長年代に上記の書籍が日本に紹介されて以来、日本の本草学が次第に医学から独立し、二分化していった。第一系統は、『(51) (52)』(1747年)の最初の362巻に携わった (53) (54) に代表される。名称と実物との照合に重点を置く思想がその基本理念である。1708年に『(55) (56)』を刊行した貝原益軒がすでに漢籍と日本の実体が乖離していることに対する疑念を表した。それを汲む第二系統の田村藍水らには(イ)自然資源への関心が高まってくる。幕府が国の自給を図って専売制を実施し、(57) (58) 年に( a )座を設ける背景には田村藍水がその栽培を可能にする学問上の、正に実学と形容すべき努力があることは言うまでもない。

国倫は医学に対する熱意が低く、植物より鉱石の類を調べたかったように思われる。秩父中津川に鉄鉱山事業を立ち上げること、あるいは同じ地方の両神山で発見された(ウ)石綿から( b )という不燃布を製造することに彼の博物学的なものの見方がうかがえると同時に、武士の価値観に反して山師の活動で富を得ようとしたことも一目瞭然であろう。

「刀が邪魔に相成り候」(桃源宛て書簡)と嘆く国倫が、結局安永3年(1774年)に秩父の鉱山事業に失敗し、(59) (60) の政策で鉱山事業を奨励していた幕府の信頼を失ってしまう。位の低い武士という身分から解放されたい彼が安永2年に秋田藩主の(61) (62) 義敦(1748～1785)に協力者の吉田理兵衛と一緒に招かれて、(エ)秋田で銅鉱山の(オ)粗銅中の銀を分離する精錬法の伝承や踏査などに携わる。国倫の書簡には、義敦は大変満足し、2000石の知行を国倫に贈ろうとしたが、いかなる束縛も避けたいため、彼がこれを断ったと書かれている。しかし、国倫とこの大名との、身分の差を乗り越えた関係の理由は彼のもう一面にあるかもしれない。曙山という号を持っていた秋田藩主は(カ)文人画をたしなんでいた。幼い頃から絵書きの才能を見せ、恐らく長崎で西洋の画法を習得した国倫をもとに置きたいという思惑があったのであろう。また、国倫は義敦の弟である義躬(1749～1800)の治めている角館で(63) (64) に出会った。その後、彼は江戸に駐在して国倫に師事し、『(65) (66)』の挿絵に携わることになる。この秋田遠遊によって秋田蘭画が生まれたが、一旦廃れてしまった腐食銅版画の復活を成し遂げる

(67) (68) にも国倫の影響が認められる。

(69) (70) を書くとき ( c ) と名乗っていた国倫の最後は暗い。『椿説弓張月』の著者

(71) (72) が『近世物之本江戸作者部類』の中でこう語っている。彼が神田にお化けが出るという噂の、買い手の見つからない家に強がって住んで、6 カ月後理由もなく人を殺してしまったと。国倫は投獄されて間もなく亡くなってしまう。

(国倫について様々言われており、伝説じみた事柄が少なくないが、この文章はフランス人学者 Hubert Maës [H.G. et son temps, EFEO, 1970] の見解を一部用いたものである。)

〔A〕 文中の空欄 (37) (38) ～ (71) (72) に当てはまる最も適切な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 1763	12 1766	13 1767	14 1772	15 垂欧堂田善
16 安藤昌益	17 稻生若水	18 上田秋成	19 浦上玉堂	20 大田南畝
21 荻生徂徠	22 小田野直武	23 阿蘭陀本草和解	24 解体新書	25 怪談物
26 荷田春満	27 歌舞伎	28 賀茂真淵	29 含翠堂	30 黄表紙
31 銀台	32 玄随	33 玄沢	34 源内	35 玄白
36 恋川春町	37 興讓館	38 酒井忠清	39 佐竹	40 山東京伝
41 式亭三馬	42 閑谷学校	43 自然真営道	44 司馬江漢	45 洒落本
46 修猷館	47 浄瑠璃	48 庶物類纂	49 鈴木牧之	50 滝沢馬琴
51 伊達	52 田沼意次	53 為永春水	54 日新館	55 日本植物誌
56 人情本	57 農政本論	58 後見草	59 野呂元丈	60 細川
61 本草綱目	62 本多忠籌	63 松平	64 円山応挙	65 三浦梅園
66 水野忠成	67 村田	68 明德館	69 明倫館	70 明倫堂
71 本居宣長	72 宿屋飯盛	73 柳沢吉保	74 大和本草	75 湯島聖堂
76 読本	77 頼山陽	78 蘭学階梯	79 蘭学事始	80 渡辺崋山

〔B〕 文中の空欄 (a) ～ (c) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

〔C〕 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、「本草学」の「本草」の中国でのもともとの意味を書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) について、江戸時代に本草学から発展した学問の名前を書きなさい。
- (3) 下線部 (ウ) について、オランダ語の語源をもつ同義語を書きなさい。
- (4) 下線部 (エ) について、秋田藩の銅鉾山の名前を一つ漢字で書きなさい。
- (5) 下線部 (オ) について、元和年間に泉屋が大坂で使っていたその手法の名前を書きなさい。
- (6) 下線部 (カ) について、同様の画風を指すもう一つの名称を書きなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

幕末以降の日本とロシアとの関係について見てみよう。

1853年にロシア使節 (73) (74) が長崎に、翌年、下田に来航し、開国と国境の画定を要求した。日露和親条約が結ばれ、3港を開港し、国境については (75) (76) 以南を日本領、(77) (78) 以北をロシア領とし、(ア)樺太は両国人雑居の地として境界を定めないこととされた。1858年に日米修好通商条約が結ばれ、ロシアとの間でも同様の条約が結ばれた。1861年にロシア軍艦 (79) (80) 号が対馬に停泊して租借権を要求する対馬占拠事件がおこったが、約半年後に退去した。

岩倉具視、寺島宗則の外交のあとを受け継いだ (81) (82) 外務卿（のち外相）は各国との条約改正を図ったが、(a) 任用を改正案に盛り込んだことに批判を浴び辞任することとなり、後任の大隈重信外相がロシアなどと交渉を行った。1891年に来日中のロシア皇太子が警備の巡査によって切りつけられるという大津事件が発生し、(83) (84) 外相が辞任した。内閣は死刑を要請したが、大審院長 (b) は無期徒刑の判決を指示し、司法権の独立を守ったといわれる。

日清戦争後、ロシアはフランス、ドイツとともに、下関条約で日本に割譲された (85) (86) の返還を要求するという三国干渉が行われた。日本は、これを受け入れたが、(イ)ロシアへの敵意の増大を背景に軍備増強に努めることとなった。その後、北清事変を機にロシアは満州を事実上占拠した。日本では、伊藤博文をはじめロシアと「満韓交換」を行おうとする (87) (88) 論もあったが、桂太郎内閣は対露強硬方針をとった。日露の交渉は決裂し、日露戦争がはじまった。日本は、日本海海戦などで勝利したものの、国力の面で戦争継続は困難であった。1905年にセオドア・ローズヴェルトの仲介により、日本全権小村寿太郎とロシア全権 (89) (90) がポーツマス条約に調印した。この戦争で、戦費調達のため地租などの税率が引き上げられたほか、(91) (92) 税や通行税が新設された。この時、耐乏生活を強いられた国民の不満が爆発し、(93) (94) 焼打ち事件が発生したことから、政府は (95) (96) を出してこれをしずめた。その後、ロシアとの協調が進み、1907年に第一次日露協約が結ばれた。1917年にはロシア革命がおこり、これに干渉する目的で、日米英仏がシベリア出兵を行った。1920年にシベリアのニコラエフスクにて日本人が殺害されるという (97) (98) 事件がおこった。1925年 (99) (100) 内閣のとき日ソ基本条約が結ばれ、ソ連との国交が樹立された。

1938年に日本はソ満国境東部でソ連軍と戦い、敗北するという (c) 事件がおこった。翌年、満蒙国境地帯でソ連・モンゴル連合軍と戦い、大打撃を受けるというノモンハン事件がおこったが、モンゴルでは (101) (102) 戦争と呼ばれている。1941年に松岡洋右外相と (103) (104) 外相が日ソ中立条約に調印したが、1945年8月にソ連は日本に宣戦布告をし、満州・朝鮮に侵入した。

第二次世界大戦後の1951年に日本はサンフランシスコ平和条約に調印し、独立国としての主権を回復したが、ソ連は調印を拒否した。鳩山一郎首相は、1956年モスクワを訪れ、(105) (106) 首相と(ウ)日ソ共同宣言に調印し、ソ連との国交正常化を果たした。1980年にモスクワでオリンピックが開催されたが、(エ)日本は参加しなかった。ソ連では、1985年に登場したゴルバチョフの指導のもとペレストロイカやグラスノスチが進められ、1989年12月に冷戦の終結が宣言された。1991年にソ連邦が解体され、ロシア共和国（現ロシア連邦）を中心とする (d) が結成された。村山富市首相退陣後に就任した (107) (108)

首相は、北方領土問題に取り組むが、実現せず、1989年辞職することとなった。現在にいたるも日ソ平和条約は結ばれていない。

〔A〕 文中の空欄 (73) (74) ～ (107) (108) に当てはまる最も適切な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 青木周蔵	12 伊東巳代治	13 井上馨	14 ヴィッテ	15 得撫島
16 営業	17 エカチェリーナ	18 択捉島	19 エリツィン	20 鴨緑江
21 オールコック	22 小淵恵三	23 戒厳令	24 海部俊樹	25 片岡健吉
26 加藤高明	27 樺山資紀	28 亀戸	29 カラハン	30 国後島
31 クロボトキン	32 後藤象二郎	33 ゴローニン	34 西園寺公望	35 山東半島
36 色丹島	37 幣原喜重郎	38 占守島	39 所得	40 相続
41 太原	42 台湾	43 竹下登	44 竹橋	45 谷干城
46 治安維持法	47 長春	48 ディアナ	49 寺内正毅	50 虎の門
51 尼港	52 日露協商	53 ノルマントン	54 橋本龍太郎	55 齒舞群島
56 浜口雄幸	57 ハルハ河	58 日比谷	59 プーチン	60 フェートン
61 プチャーチン	62 ブルガーニン	63 フルシチョフ	64 平頂山	65 保安条例
66 奉天	67 北進	68 ボサドニック	69 松方正義	70 万宝山
71 陸奥宗光	72 モッセ	73 モリソン	74 モロトフ	75 山県有朋
76 ラクスマン	77 遼東半島	78 レーニン	79 レザノフ	80 盧溝橋

〔B〕 文中の空欄 (a) ～ (d) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

〔C〕 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、1875年に樺太についての帰属を決めた条約が結ばれたが、その交渉にあたった駐露公使は誰か、氏名を漢字で書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) について、このときの合言葉となった四字熟語を漢字で書きなさい。
- (3) 下線部 (ウ) について、それまでソ連の反対で実現できなかったが、(ウ) によりソ連が賛成し、同年実現できたことを漢字 6 文字で書きなさい。
- (4) 下線部 (エ) について、ソ連の侵攻が不参加の理由となったが、侵攻した国名を書きなさい。